

第10回

日本音楽療法学会関東支部 講習会・地方大会（神奈川）



つながる・音楽あればこそ

大会長 吉田勝明（横浜相原病院）

3月10日(土) 講習会

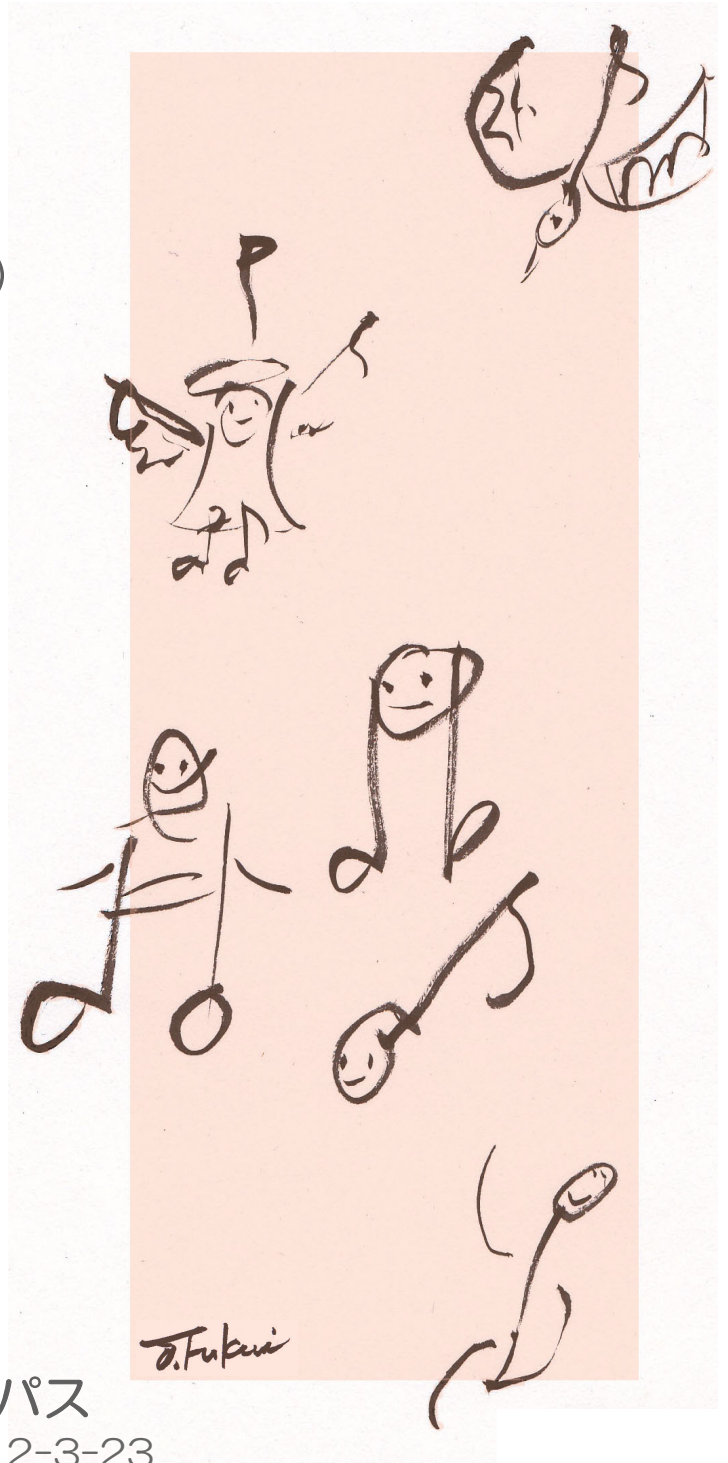
13:30~18:30 (仮)

3月11日(日) 地方大会

9:30~16:30 (仮)

特別講演 辻井 いつ子氏
(ピアニスト辻井伸行氏のお母様)

大会企画 学生フォーラム



会場 東海大学 高輪キャンパス

〒108-8619 東京都港区高輪 2-3-23

JR京浜急行「品川」駅下車 18分／

都営地下鉄浅草線「泉岳寺」駅下車徒歩 10分／

東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線「白金高輪」駅 下車徒歩 8分／

2011年3月11日、M9.0 世界最大級の東北地方太平洋沖地震が発生しました。被災者は身体的な外傷だけでなく、こころにも大きな傷を残しています。たくさんのボランティア達が東北の地に集い、地域の復興のため労を惜しまず活動しています。

確かに大地震や大津波はたくさんの建物・命を奪い去っていきました。しかし、残された私たちの復興に向けた情熱までは奪ってはいけません。

ある避難所では「北国の春」「上を向いて歩こう」「ふるさと」などのメロディがながれ、被災者たちの心を癒しています。こんな時にレクレーションか、セラピーかなどと言うことにはこだわりたくありません。いずれにしても音楽の持つ力を再認識することに異論を唱える人はいなかったと思います。

「日本人は一期一会を大切にす民族である」—映画「太平洋の奇跡」での台詞です。私たちは広い宇宙の中の地球に、しかも日本に生まれ、人類の発生が約25万年前のホモサピエンスとすれば、25万年分の80年の人生を同じ時期を過ごし・・・音楽を通じた仲間と出会います。そしてこの音楽を用いて、病める人々を助けたいという共通の目的を持った、まさに「一期一会」です。こうした思いを「つながる・音楽あればこそ」の大会テーマにこめ、この出会いを大切に、多くの仲間たちと神奈川大会でお会いすることを楽しみにしています。

実行委員長挨拶にかえて「大会テーマについて」

今村 ゆかり

神奈川での地方会開催は、2003年第2回以来二度目になります。今回は、地方会が「会員数も多く、知っているようで知らない関東支部会員同士の絆を結び直すような場」となることを意識して、「つながる・音楽あればこそ」を大会テーマといたしました。私たち音楽療法士は、対象となるクライアントと音楽があるからこそつながることができます。また、「音楽あればこそつながり」は、多くの人にとって、自分自身と折り合いをつけ、他者との関わりをはぐくみ、社会との接点を確認するような広がりももっています。こうした広がりのある視点から今大会ならではの企画を準備しています。

まず講習会では、長年臨床に携わっていらした音楽療法士の先生方にこれまでの専門職としての歩みをうかがったり、異なるアプローチからの臨床を考える機会を設けました。異なるアプローチでは、関連する他職種の先生方にもお話いただく予定です。

地方大会の特別講演は、ピアニスト辻井伸行さんのお母様、辻井いつ子氏にお話しいただきます。伸行さんを支えてこられたご家族の歩みを伺う貴重な機会になることと思っております。研究発表では、従来の口述・ポスター発表に加え、会員同士がお互いの「悩み・問題」を共有し検討し合う場なども設けています。この他、次世代を担う学生達の集いやシンポジウムも鋭意準備中です。

講習会、交流会、地方大会、それぞれの場面で活気のある交流がうまれてこそ、つながりも生まれ深まっていきます。多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

特別講演

辻井いつ子氏

「明るく、楽しく、そしてあきらめない生き方」

辻井いつ子氏のプロフィール

1960年、東京生まれ。東京女学館短大卒業後、フリーのアナウンサーとして活躍。86年、産婦人科医の辻井孝氏と結婚。88年に生まれた長男・伸行氏が生後まもなく全盲とわかり、手探りで子育てをスタートする。「明るく、楽しく、あきらめない」をモットーに、持ち前のポジティブさと行動力で伸行氏を育てる。著書に『今日の風、なに色?』『親ばか力』（いずれもアスコム）。「辻井いつ子の子育て広場」を開設。

(PC版) <http://kosodate-hiroba.net>

(携帯版) <http://kosodate-hiroba.net/m>

講習会ご案内

「つながる、音楽あればこそ」... 講習会ではこの大会テーマに
“互いの仕事から学び合い、プロとしての絆を深められるように”
という願いをこめました。

A 枠

経験豊かな音楽療法士が語る専門職への道のり

「私の紆余曲折」と題し、今日までのあゆみ、臨床での失敗や学び、そこからつかんだ独自の方向性、周囲の人々とのつながりなどを、3人の音楽療法士が語ります。音楽療法士なら誰でも悩み、乗り越えていかなければならない専門職へのプロセスは、深い共感と示唆を与えてくれるのではないのでしょうか。

私の紆余曲折：
高齢者に定評のある
音楽療法士

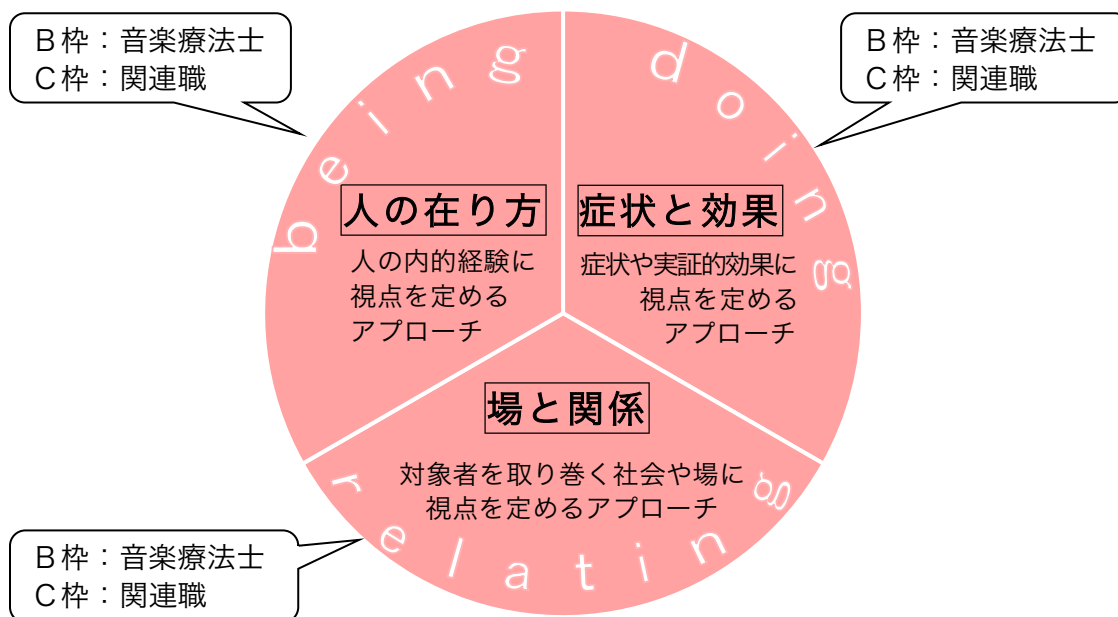
私の紆余曲折：
子どもに定評のある
音楽療法士

私の紆余曲折：
精神科に定評のある
音楽療法士

B-C 枠

さまざまな対象者領域に応用できる3つの臨床アプローチ

今日広く行われている3つの「臨床アプローチ」にスポットを当てます。この区分けは、従来の講習会のような対象者領域によるものとは異なりますが、逆にどのような対象者にも応用できる基本的な療法的視点です。



それぞれのアプローチについて、B 枠では音楽療法士、C 枠では関連職の先生を講師とします。各々の素晴らしさや応用方法などを学び、世界を拓ける場にしたいと思います。

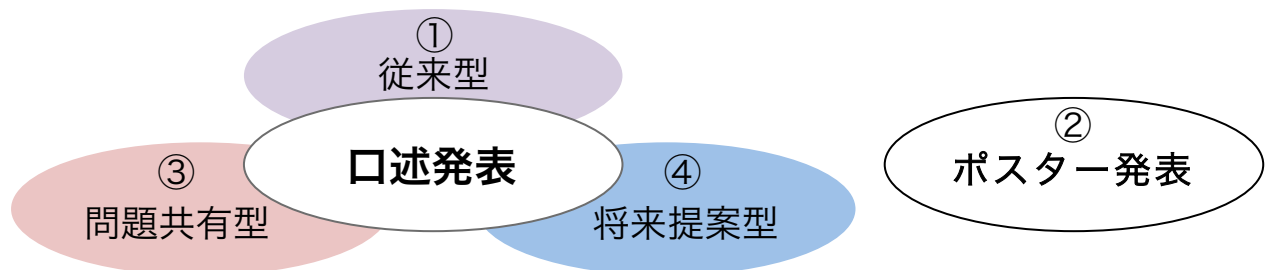
現在、各方面でご活躍中の個性溢れる先生方と交渉中です。どうぞご期待ください！

学生フォーラム（仮）について

神奈川を拠点とする、三大学（昭和音楽大学、洗足学園大学、東海大学）で音楽療法を学ぶ学生達がホストとなり、学生時代にどのような学習、実習を行っているのか、将来音楽療法を仕事としてゆくに当たっての期待や不安など学生たちの本音を語ります。

研究発表について

今大会の研究発表では、実践や研究の成果報告をする従来型の口述発表・ポスター発表に加えて、新たに地方会らしい取り組みとして「身近で現実的な問題を皆で考える」、および「音楽療法の将来を展望するような提案型」の研究発表を企画しました。



① 従来型の口述発表 (発表 15 分、質疑応答 5 分)

② 従来型のポスター発表

③ 問題共有型口述発表 (コメンテーター付き) ～皆で考えよう、あなたの問題は私の問題～

行き詰った、困った、迷った等々日々のセッションで悩んだことはありませんか？あなたが困ったことは実は私も困っているかもしれないのです。あるいは他の人に良いアイデアがあるかもしれません。そんな悩みについて、打ち明けてみませんか (最後に問題点を 4 点以内にまとめる)。そのプロセスを通して、新しく見えてくるものがあるかもしれません。またそれは、同じ悩みを持つ多くの実践者にとっても、きっと実り多い場となることでしょう。例えば下記のようなことが考えられます。
<※書式等詳細は次回案内に掲載>

(発表 25 分、フロアとの意見交換 20 分、コメンテーターのまとめ 5 分)

○対象者について・・・対象者の症状や問題行動、対象者との距離や関係性 etc.

○用いる音楽について・・・選曲、楽器の選択 etc. (楽器がほとんど使えない場合も含む)

○環境について・・・MT 同士のチームワーク、他職種との連携、保護者や施設との関係 etc.

④ 将来提案型口述発表 ～音楽療法を起業する、他領域との連携を深める etc.

今までにない、新しい音楽療法の形(主として職業としての発展)を展開している人はいませんか？たとえば株式会社を設立して起業した、あるいは NPO 法人を起こして行政との協力という新しい形態のセッションを開始した etc. そんな未来を先取りするような取り組みを報告していただくことで、次世代の音楽療法を考える場となり、**新しい風が音楽療法の世界に吹く**ことを期待しております。

(発表時間 20 分、質疑応答 5 分)

* 申込期間 10/16～11/15 (予定)



詳細は、関東支部ホームページ及び 9 月末発送予定の第 2 次案内をご覧ください。